

(財) 県民ボランティア振興基金10周年記念フォーラム NPO団体らとともに受賞

去る2月24日(日)、長崎市出島交流会館において『(財) 県民ボランティア振興基金設立10周年記念フォーラム』が実施されました。この県民ボランティア基金は、雲仙普賢岳災害の折に全国各地から寄せられた寄附等をもとに設立されました。その施策の一環として、県内の顕著な活動(地域社会への貢献度が高く、他のモデルとなる実践的な活動)を進めるNPO法人やボランティア団体に対し、毎年奨励賞を送ってきました。



映像とともに活動を介绍する末永

『吉井エコツーリズムふるさとの会』は佐世保市からの推薦を受け、ありがたく本年度の奨励賞を受賞することになりました。授賞式には和田副会長、川崎さんと3名で出席しました。(偶然、吉井町の婦人会がこのフォーラムに出席) この日に受賞した団体はNPO法人3団体、ボランティア団体2団体。次に簡単に紹介します。

新現役の会長崎センター…長崎市との協働事業として、団塊シニア世代に向け講座や情報紙を発行している。

ながさきACLS協会…県内外で一次および二次救命処置の講習会を実施し、地域の安全・安心に寄与している。

どうぶつたちの病院…希少野生動物や一般鳥獣の治療・リハビリ等、動物と人が安心して暮らせる社会づくり。

舌岐島活性化集団チーム防人…舌岐市の活性化と広報、環境保全のためにガイド等幅広く活動している。



受賞団体の代表 (記念撮影)

まだまだこれからの“ふるさとの会”

吉井エコツーリズムふるさとの会に与えられた評価は、(吉井地域に存在する史跡、自然景観、近代化遺産などの豊富な資源の存在を活用して、地域の活性化につなげ、保全や顕彰に努めている(文意))というもの。

私たちのふるさとの会は設立5年を迎えようとしています。現在(2月末)会員数は23名です。私たちの活動の目的は、評価のそのものですが、この5年、どこまで達成できたかということに於いては、まだまだの感があります。地域にもまだ私たちの活動の存在は知られていないのが現実ではないでしょうか。『地域と共に』をこれから先大きな合言葉にしながら進めて行くことが大切かなと、表彰式の会場で思いを新たにしました。